

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月 15日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22401029

研究課題名（和文）西欧・中国・日本史料による16－17世紀東アジア海域史の総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive Study on East Asian Maritime History in the 16th and 17th Centuries Based on Western, Chinese and Japanese Historical Sources

研究代表者

中島 楽章（NAKAJIMA YOSHIAKI）

九州大学・人文科学研究院・准教授

研究者番号：10332850

研究成果の概要（和文）：

本研究では、西欧（ポルトガル・スペイン・オランダ）史料・中国史料・日本史料を専門とする研究者の共同研究により、16－17世紀の東アジア海域における、海上貿易、人の移動・文化交流などについて、総合的・多角的な検討を進めた。また日本・台湾・中国において国際シンポジウムを開催するとともに、論文集を編集し、研究成果を国内外に発信した。

研究成果の概要（英文）：

In this research project, we made a comprehensive and multilateral study of maritime trade, human migration and cultural change in the maritime East Asia in the 16th and 17th centuries through the joint research by the experts of Western (Portuguese, Spanish and Dutch), Chinese and Japanese historical sources. We held international meetings in Japan, Taiwan and China, as well editing collected papers for publishing our studies to the domestic and foreign academic circle.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2011年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2012年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
総計	11,100,000	3,330,000	14,430,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学一般

キーワード：島嶼・海域史、東アジア海域、海上貿易

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、一国史的な枠組みをこえた、ボーダーレスな歴史研究の試みが活発化しつつある。特に東アジア海域史では、こうしたアプローチが積極的に試みられている。

(2) ただし東アジア海域史研究においても、考察の対象は主として日本・中国・朝鮮・琉球などの東シナ海域を中心とし、史的には漢籍・日本史料を主としている。南シナ海域

にまで視野をひろげ、西欧史料も活用した研究はなお乏しい。

(3) 特に16－17世紀は、東シナ海域と南シナ海域が一体化し、またヨーロッパ勢力が海域アジアに進出し、豊富な記録を残した時代である。この時代の東シナ海域の全体像を論じるためには、東・南シナ海域を総体として考察し、西欧・漢籍・日本史料を多角的に検討することが必要である。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、16-17世紀の東アジア海域における海上貿易やヒト・モノ・文化の移動を、中国・日本・ポルトガル・スペイン・オランダ・イギリスの一次史料や研究文献を、総合的に利用して検討することにある。

(2) そのために、中国・日本・西欧史料研究を専門とする研究者の協力により、各国語史料による情報を共有し、また共同で海外史料の調査収集を行う。

(3) こうした共同研究によって、単独の研究者では難しい、多国語史料を活用した検討を進め、東洋史・日本史・西洋史という既存の領域を超えた、多角的な東アジア海域史研究の可能性を探究し、その方法論を提示する。

3. 研究の方法

(1) 海外史料の調査・収集：研究代表者・分担者・協力者が、一名または複数名で、海外の文書館や図書館において、海外共同研究者の協力も得て、原文書・文献史料・研究文献の調査収集を行う。

(2) 現地調査・現地研究者との交流：史料調査とあわせて、必要に応じて東アジア海域史に関連する史跡・遺物などの現地調査を行う。また、海外共同研究者をはじめとする現地の研究者との学術交流を進め、情報を交換する。

(3) 研究成果の発信：海外共同研究者の協力も得て、海外において国際ワークショップを開催する。また国内においても、関連する研究プロジェクトや研究グループとも連携して、研究会やワークショップを開催する。さらに最終的な研究成果を、論文集として刊行する。

4. 研究成果

(1) 2010年度

研究計画の第一年度として、共同で海外史料調査を行い、また国内で国際シンポジウムを開催し、研究の方向性を提示した。

① 海外共同史料調査：

2010年11月には、研究代表者・分担者・協力者はポルトガル・スペインにおいて共同史料調査を行った。スペインではセヴィーリャのインディアス総文書館・マドリッドの王立史学士院図書館において、16-17世紀の東アジア関係文書・史籍を調査し、ポルトガルでは、トルレ・ド・トンボ文書館において、18-19世紀のマカオに関する漢文文書の調査を行った。

② 国際会議開催：

2011年1月29日、堺市博物館において、国際ワークショップ *Maritime East Asia in the 16th and 17th Centuries: New Sources and Perspectives* を開催した。海外共同研究者である Harriet T. Zurndorfer 教授を招聘して、日本側報告者とともに、英語による研究発表と討論を行った。

③ 個別海外史料調査：

研究代表者・分担者は、中国・台湾・韓国・オランダ・フランスなどの文書館・図書館において、史料・文書調査を進めた。また研究協力者の Lucio de Sousa は、メキシコの文書館において日本人奴隷売買に関する多くの新史料を発掘し、上記のワークショップでその成果を発表した。

(2) 2011年度

研究計画の二年目にあたり、海外史料調査を継続するとともに、台湾で国際ワークショップを開催し、研究成果を発信した。

① 国際会議の開催：

2011年11月3日・4日、台湾の中央研究院人文社会科学研究中心との共催により、中央研究院において国際シンポジウム「近世東亜海域史的多視角研究：以各国史料為中心的探討」を開催した。研究代表者・分担者・協力者が、台湾からは劉序楓研究員ほか10名が報告し、中国語・英語による討論を行った。

② 海外史料調査：

研究代表者・分担者・協力者は、それぞれが中国・台湾・韓国・オランダ・ポルトガルなどの文書館・図書館・大学において、16-17世紀東アジア海域に関する、中国・西欧・日本史料の調査を行った。研究代表者・分担者・協力者また2012年12月22日-29日には、ベトナムにおいて現地調査を行い、ハノイ周辺及びホイアンにおいて、海域史・対外関係史跡の現地調査を行った。

③ 国内研究会・現地調査：

2011年6月11日、長崎歴史文化博物館において、本科研の定例研究会を開催し研究代表者・協力者の報告と、博物館の研究者と、長崎を中心とした海域交流史に関する情報交換と討論を行った。12日には西彼杵半島において、隠れキリシタン関係の史跡調査・現地調査を行い、隠れキリシタンの子孫へのインタビューを実施した。

(2) 2012年度

研究計画の最終年度であり、海外での史料・現地調査を継続するとともに、国内外において国際ワークショップ・シンポジウムを開催した。さらに三年間の研究成果をまとめた論

文集を編纂中である。

① 国際会議開催：

2012年11月3日に、北京市・清華大学において、国際ワークショップThe Challenges of Global History in Maritime Studiesを開催した。また2013年1月12日には、東京大学東洋文化研究所において、国際シンポジウム「南蛮・紅毛・唐人——東アジア海域の交易と紛争」を開催した。いずれも研究代表者・分担者・海外共同研究者が、英語および日本語により報告と討論を行い、研究成果を内外に発信した。

② 海外史料調査：

研究代表者は、2012年8月に、リスボン国立図書館、トルレ・ド・トンボ文書館、アジュダ図書館において史料調査を行った。研究分担者も、中国・台湾・オランダなどの諸機関において、史料調査を実施した。

③ 国内現地調査：

2012年5月19-20日、研究代表者・分担者が熊本県天草市におけるキリシタン史跡・資料の調査を行った。また11月25-26日には、大分県臼杵市・大分市において、キリシタン墓碑・豊後府内遺跡の調査を行った。

④ 研究成果の刊行：

研究代表者・分担者による、3年間の研究成果を集めた論文集として、『南蛮・紅毛・唐人——一六・一七世紀の東アジア海域——』（思文閣出版、2013年刊行予定）を編纂し、研究成果を公表する。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 27 件）

- ① 中島楽章、一五四〇年代の東アジア海域と西欧式火器——朝鮮・双嶼・薩摩——、中島楽章編『南蛮・紅毛・唐人——一六・一七世紀の東アジア海域』思文閣出版、査読無、2013、頁数未定、DOI及びURLなし
- ② 岡美穂子、ポルトガル人のアジア交易ネットワークとアユタヤ、中島楽章編『南蛮・紅毛・唐人——一六・一七世紀の東アジア海域』思文閣出版、査読無、2013、頁数未定、DOI及びURLなし
- ③ 藤田明良、近世初期東アジア海域における情報伝達と言説創生——1660年代のオランダ船関連事件を中心に——、中島楽章編『南蛮・紅毛・唐人——一六・一七世紀の東アジア海域』思文閣出版、査読無、2013、頁数未定、DOI及びURLなし
- ④ 鹿毛敏夫、ドイツ・ポルトガルに現存する戦国大名絵画資料、中島楽章編『南蛮・紅毛・唐人——一六・一七世紀の東アジア海域』思文閣出版、査読無、2013、頁数未定、DOI及びURLなし
- ⑤ 山崎岳、ムラカ王国の勃興——一五世紀のムラユ海峡をめぐる国際関係——、中島楽章編『南蛮・紅毛・唐人——一六・一七世紀の東アジア海域』思文閣出版、査読無、2013、頁数未定、DOI及びURLなし
- ⑥ 中島楽章、ゴレス再考、史淵、査読無、150輯、2013、69-116、DOI及びURLなし
- ⑦ 中島楽章（主編）、せめぎあう海：1500-1600年、羽田正編『海から見た歴史』東京大学出版会、査読無、2013、107-183、DOI及びURLなし
- ⑧ 中島楽章、十七世紀初九州中部海港与閩南海商ネットワーク：肥後地域之明人墓与唐人町、朱徳蘭主編『誇越海洋の交換』中央研究院、査読有、2013、頁数未定、DOI及びURLなし
- ⑨ 岡美穂子、16世紀大航海時代の世界、秋田茂編『グローバル化の歴史的変遷』ミネルヴァ書房、査読無、2013、頁数未定、DOI及びURLなし
- ⑩ 中島楽章、撰銭の時代——一四六〇～一五六〇年代の東アジア銭貨流通——、史学研究、査読有、277号、2012、28-58、DOI及びURLなし
- ⑪ 中島楽章、元朝の日本遠征艦隊と旧南宋水軍、中島楽章・伊藤幸司編『寧波と博多』汲古書院、査読無、2012、85-136、DOI及びURLなし
- ⑫ 中島楽章、日本“朱印船”時代的広州澳門貿易——從“西洋渡航朱印状”談起、鄭徳華・李慶新主編『海洋史研究』3輯、社会科学文献出版社、査読有、2012、63-86、DOI及びURLなし
- ⑬ 岡美穂子、贖宥への祈り——マリア十五玄義と「オラショの功力」、文学、査読無、13巻5号、2012、31-44、DOI及びURLなし
- ⑭ 岡美穂子、大航海時代のポルトガル沈没船にみる東洋陶磁、貿易陶磁研究、査読無、32号、2012、1-7、DOI及びURLなし
- ⑮ 鹿毛敏夫、《抗倭図巻》、《倭寇図巻》和大友義鎮・大内義長、中国国家博物館館刊、査読無、102号、2012、39-51、DOI及びURLなし

- ⑬ 鹿毛敏夫、戦国大名の海洋活動と東アジア交易、貿易陶磁研究、査読無、32号、2012、41-51、DOI及びURLなし
- ⑭ 中島楽章、14-16世紀、東アジア貿易秩序の変容と再編——朝貢体制から1570年システムへ——、社会経済史学、査読有、76巻4号、2011年、3-26、DOI及びURLなし
- ⑮ 中島楽章、銃筒から仏郎機銃へ——十四～十六世紀の東アジア海域と火器——、史淵、査読無、148輯、2011、1-37、DOI及びURLなし
- ⑯ 中島楽章、ルーベンスの描いた朝鮮人——十六・十七世紀における東アジア人のディアスポラ——、森平雅彦他編『東アジア世界の交流と変容』九州大学出版会、査読無、2011、83-98、DOI及びURLなし
- ⑰ 中島楽章、明代朝貢貿易体系の変化と重組、復旦大学文史研究院編『世界史中的東亞海域』中華書局、査読有、2011、85-113、DOI及びURLなし
- 21 岡美穂子、ポルトガル領事のみた幕末長崎、日本歴史、査読無、756、2011、87-97、DOI及びURLなし
- 22 Oka Mihoko, Trade Consigned to Portuguese in Ayutthaya, *Transactions of the International Conference of Eastern Studies*, Vol. 56, 2011, 25-41, 査読有、DOI及びURLなし
- 23 山崎岳、方国珍と張士誠、井上徹編『海域交流と政治権力の対応』汲古書院、査読無、2011、3-33、DOI及びURLなし、
- 24 Oka, Mihoko, The Bottomry Contracts/ Respondencia in 17th Century Nagasaki Macau Trade, J. P. Costa ed., *Estado da India e os Desafios Europeus*, CHAM, 2010, 119-138, 査読有、DOI及びURLなし
- 25 藤田明良、明清交替期の普陀山と日本——大蔵経日本渡来事件を中心に——、アジア遊学、査読無、132号、2010、173-192、DOI及びURLなし
- 26 藤田明良、東アジアにおける島嶼と国家——黄海をめぐる海域交流史——、村井章介他編『倭寇と「日本国王」』吉川弘文館、査読無、2010、232-254、DOI及びURLなし
- 27 山崎岳、舶主王直功罪考、東方学報、査読有、85冊、2010、443-477、DOI及びURLなし

[学会発表] (計 20 件)

- ① 中島楽章、1540年代の東アジア海域と西洋式火器——双嶼から薩摩へ——、国際シンポジウム「南蛮・紅毛・唐人——東

- アジア海域の交易と紛争」2013年1月12日、東京大学東洋文化研究所
- ② 藤田明良、東アジア海域における紛争と言説生成——1665年のオランダ船普陀山襲撃事件を素材として——、国際シンポジウム「南蛮・紅毛・唐人——東アジア海域の交易と紛争」2013年1月12日、東京大学東洋文化研究所
- ③ 鹿毛敏夫、16世紀九州における豪商の成長と貿易商人化、国際シンポジウム「南蛮・紅毛・唐人——東アジア海域の交易と紛争」2013年1月12日、東京大学東洋文化研究所
- ④ 山崎岳、ムラカ王国の勃興——その国際関係を中心に——、国際シンポジウム「南蛮・紅毛・唐人——東アジア海域の交易と紛争」2013年1月12日、東京大学東洋文化研究所
- ⑤ Nakajima Gakusho, Smugglers and Firearms: Transmission of Western Style Firearms in the Dawn of the “Age of the Commerce”, *The Challenges of Global History in Maritime Studies: Trade, Network and Mediation in East Asia*, 2012年10月3日、中国、北京市、清華大学歴史系
- ⑥ Fujita Akiyoshi, Transmission of Information and Creation of Discourses in Maritime East Asia: A Case Study of the Dutch Ship's Assault on Putuoshan in 1665, *The Challenges of Global History in Maritime Studies: Trade, Network and Mediation in East Asia*, 2012年10月3日、中国、北京市、清華大学歴史系
- ⑦ Kage Toshio, Relations between Japanese Warlords and the Wakou in the 1550's, *The Challenges of Global History in Maritime Studies: Trade, Network and Mediation in East Asia*, 2012年10月3日、中国、北京市、清華大学歴史系
- ⑧ Yamazaki Takeshi, Malacca and Folangji in Chinese Perspective, *The Challenges of Global History in Maritime Studies: Trade, Network and Mediation in East Asia*, 2012年10月3日、中国、北京市、清華大学歴史系
- ⑨ Oka Mihoko, The Mendicant Orders and a Painting of the 15 Mysteries of the Rosary, *Early Modern Japan in European Archives*, 2012年9月29日、京都大学人文科学研究所

- ⑩ Yamazaki Takeshi, Natives and Foreigners: Marginal Peoples and Societies under the conflict between Ming China and Mac Daiviet, *Crossroads between Empires and Peripheries*, Ghent University, Ghent, Belgium, 2012. 7. 21
- ⑪ 中島楽章、十七世紀初九州中部海港与閩南海商網絡——肥後地域之明人墓与唐人町——、第四届國際漢学会議—跨越海洋的交換：東亞海域中的人員移動・商品与文化交流、2012年6月20日、台湾、台北市，中央研究院人文社会科学研究中心
- ⑫ 中島楽章、豊臣政権と「1570年システム」、日本史研究会2012年6月例会、2012年6月16日、京都市・機関紙会館
- ⑬ 中島楽章、十六世紀末の九州—東南アジア貿易——加藤清正の呂宋貿易を中心に、国際ワークショップ「近世東亞海域史的多視角台北市，研究：以各国史料为中心的探討」、台湾、中央研究院人文社会科学研究中心、2011年11月3日
- ⑭ 中島楽章、十六世紀末、東アジア交易秩序の再編と日本列島、広島史学研究会シンポジウム「16-17世紀の東アジア交易秩序と銀流通」、広島大学、2011年10月29日
- ⑮ 中島楽章、日本“朱印船”時代的広州、澳門貿易——從“西洋渡航朱印状”談起、中国、澳門市、大航海時代的澳門、広東与東南亞国際学術研討会、澳門大学、2011年7月28日
- ⑯ 中島楽章、双嶼走私貿易与西式火器的傳播——以一五四〇年代的九州島南部为中心、鄭和与航海暨舟山双嶼港国際論壇、中国、浙江省舟山市行政中心、2011年7月11日
- ⑰ Oka Mihoko, Changes in Trade Investments in Maritime Asia from the 16th to 17th Centuries, 第56回国際東方学者会議、東京都・日本教育会館、2011年5月20日
- ⑱ Nakajima Gakusho, Controversies Concerning the Revival of Sino-Japanese Tributary Trade during the Japanese Invasion of Korea, *Empires and Networks: Maritime Asian Experience 9th to 19th Centuries*, Singapore, Institute of Southeast Asian Studies, 2011. 2. 22
- ⑲ Nakajima Gakusho, Structure and Transformation of the Ming Tributary Trade System, *International Workshop, Maritime East Asia in the 16th and 17th Centuries: New Sources and*

Perspectives, Sakai City Museum, Sakai, 2011. 1. 29

- ⑳ Nakajima Gakusho, Structure and Transformation of the Ming Tributary Trade System, *Roundtable on The Nature of Political and Spiritual Relations among Asian Leaders and Politics from the 14th to the 18th Centuries*, Institute of Asian Research, University of British Columbia, Vancouver, Canada 2010. 4. 21.

〔図書〕(計 5 件)

- ① 中島楽章・伊藤幸司(編)、汲古書院、『寧波と博多』(東アジア海域叢書 第11卷)、2012、xx+452
- ② 中島楽章(編)、思文閣出版、『南蛮・紅毛・唐人——一六・一七世紀の東アジア海域』、2013、頁数未定
- ③ 鹿毛敏夫、『アジアから見た豊後大友氏』海鳥社、2012、220
- ④ 鹿毛敏夫、『アジア戦国大名大友氏の研究』吉川弘文館、2011、254
- ⑤ 岡美穂子、『商人と宣教師 南蛮貿易の世界』東京大学出版会、2010、382

〔その他〕

ホームページ等
ブログ「東アジア海域史料研究」
<http://blog.goo.ne.jp/lisuboa2010>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中島 楽章 (NAKAJIMA YOSHIKI)
九州大学・人文科学研究院・准教授
研究者番号：10332850

(2) 研究分担者

岡 美穂子 (OKA MIHOKO)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：30361853

八百 啓介 (YAO KEISUKE)
北九州市立大学・文学部・教授
研究者番号：20212269

藤田 明良 (FUJITA AKIYOSHI)
天理大学・国際学部・教授
研究者番号：50309514

山崎 岳 (YAMAZAKI TAKESHI)
京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号：60378883

鹿毛 敏夫 (KAGE TOSHIO)
新居浜工業高等専門学校・准教授
研究者番号：60413853